

国語 第5学年 読む人を意識して構成を考え、物語を書こう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：読む人を意識し、人物の見方や出来事の見せ方を変えて物語を構成する。出来事を並べる順序と、語る人物が知っている範囲をそろえ、途中で矛盾しない展開を考える。B(1)イの学習として、物語の構成表と自作物語。人物、出来事の順、読む人に示す順、後の出来事のために必要な手がかりを記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読む人に筋道が伝わるように、語る人物の立場と情報の順序をそろえて物語全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：物語の構成表と自作物語を残す。人物、出来事の順、読む人に示す順、後の出来事のために必要な手がかりを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)イに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：人称だけを替えて語り手が知らない情報も語る。最後を変えるだけで前半との因果関係が切れる。これについて、出来事の順序と、読む人に示す順を別にメモする。語る人物が知る情報に印を付け、知らないことは推測と区別する。既存作品を使う場合も本文を書き写さず、授業内の案として扱う。〔知識及び技能〕(1)カとB(1)イを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この人物から見て語るなら、何を知っていて、何は知らないはずですか。読み手に知らせる順を変えると、どう感じられますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：物語の構成表と自作物語は紙に記録できる。人物、出来事の順、読む人に示す順、後の出来事のために必要な手がかりを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)イの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：原作の文章を書き換えて配布してよいのか。

返し：本案では教科書本文を転載しない。B(1)イに関わる構成の学習を扱う。学級で読む原本と児童の創作を分け、既存作品を基にした創作を外部へ配布する活動は計画していない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この人物から見て語るなら、何を知っていて、何は知らないはずですか。読み手に知らせる順を変えると、どう感じられますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。
B(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

